寄稿

札幌少年
ラグビースクール
副校長
工藤　祐一

札幌少年ラグビースクールが開校 30 周年を迎えられたことを関係者と共に祝いたいと思います。

昭和 56 年５月 10 日、自衛隊真駒内体育館に於いて、初代林喬義会長（故北大ＯＢ）はじめ、札幌有惑クラブ有志 20 数名のメンバーと入校者 77 名で発会式が行われ、札幌少年ラグビークラブがスタートして現在のスクールに至っています。

私も息子の入校と同時にスクールに係わり 27 年間の流れを見てきました。練習場の確保に苦労した時期もありましたが、今は、ご好意に甘えて尚志学園グランド、冬期は北海道青少年会館で１年を通して練習ができます。

又、ＯＢ父母の会より、毎年合宿、遠征の為に厚いご支援をいただき、恵まれた環境でプレーできることは幸せです。協力者の皆様には厚くお礼を申し上げます。

進学してからもラグビーを続けていた卒業生達が 30 周年を迎えた現今、社会人チームでラガーマンとして、又、指導者として活躍している姿は頼もしい限りです。ラグビー精神をしっかり培ってくれています。

これからの楽しみは、ＯＢの子供達がスクールに入校してくれることです。ラグビーをやってよかった、やらせて良かったとの声に励ましをいただき、札幌少年ラグビースクールの姿勢を崩すこと無く、関係者が一体となり、英知を結集して、スクールの発展の為、日々努力してくれることを願います。

又、これまで札幌少年ラグビースクールを支えて下さった諸先輩指導者には心から感謝を申し上げます。

札幌少年
ラグビースクール
副校長
小泉　富治

当スクールが開校３０年を迎えたことを、関係者の１人として大変うれしく思います。

当スクールの発足にあたっては多くの諸先輩の並々ならぬ御尽力と熱意によりスタートしたと伺っております。当時は函館、小樽、遠軽、北見、帯広、富良野にチームがあり活動していたと記録されています。札幌でのスクールの発足に当たっては北海道テレビ放送・朝日新聞北海道支社に全面的なバックアップをいただき会員の募集活動がされたとも伺っています。その成果により７０余名のスクール生の参加を得て、札幌自衛隊真駒内駐屯地体育館で昭和５６年５月１０日に産声を上げ、今日に至っています。

当初の指導者は設立に奔走された札幌有惑クラブのメンバーがあたり、その後、ラグビー経験者や保護者の方などで指導体制を整備し充実を図ってきたところです。この間多くの卒業生を送り出し、高校でも引き続いてプレーする卒業生も増え、本道のラグビーの普及の一端に寄与しているかと自負しているところです。道内、道外で指導者として活躍したり、またプレーヤーとして頑張っている卒業生も多々いるとも承知しています。

３０年の歴史を刻んでこられた大きな要因としては、指導者の熱意はもとより保護者、ＯＢ並びにＯＢ父母会の皆さんの御支援があればこそと感じているところです。少子化の影響でスクール生の人数が少なくなっていますが、これからも子供達がラグビーを楽しめる環境作りのお手伝いをしていきたいと思っています。今後の大きな希望としては、是非、当スクールの出身者が桜のジャージを着ることを願っています。

最後になりますが、これまで当スクールの運営等にご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に感謝申し上げご挨拶と致します。